



平成21年8月5日

海事局総務課

独立行政法人海上技術安全研究所

海の10モードプロジェクト ～コンテナ船の環境性能鑑定サービスがスタート～

- 独立行政法人海上技術安全研究所は、現在海事局が取り組んでいる「海の10モードプロジェクト」の一環として、波や風のある海域（実海域）を運航する際の船舶の性能を設計段階で精度良く評価する手法（実海域性能評価手法）の開発に取り組んでいます。
- この度、これまでに得られた成果の一部を活用して、コンテナ船の環境性能鑑定サービスが、財団法人日本海事協会において7月31日より開始されました。
- 本サービスは、その鑑定結果を海運会社が船舶を調達する際の参考にするなど、性能の優れた船舶の開発・普及に向けたインセンティブとなることが期待されています。

国際的な環境問題への意識の高まりなどから、燃費性能の優れた船舶を建造・運航することが造船・海運業界の大きな課題の一つとなっています。しかしながら、これまでは船舶の実海域性能を評価する手法がなく、実際に就航するまで、運航中の燃費性能は分かりませんでした。

このため、海上技術安全研究所では、「海の10モードプロジェクト」の一環として、実海域性能評価手法の開発及びその手順を示したガイドラインの作成に取り組んでいます。

実海域性能評価手法の開発にあたっては、環境省とともに、我が国の海事産業の関係機関の協力を得て、実際に就航している船舶に各種計測機器を取り付け、計測した実船データを基に、実海域性能評価手法の信頼性の検証を行っています。

他方、海事産業ではコンテナ船の実海域性能評価に対するニーズが高かったことから、日本海事協会を含む民間のプラットフォームにおいて、上記の成果の一部を踏まえてコンテナ船の実海域性能評価のためのガイドラインが作成され、日本海事協会により、コンテナ船を対象とした環境性能鑑定サービスが7月31日から開始されました。

同サービスは、例えば造船所が、自社で開発した船舶に対してガイドラインに基づき実海域性能評価をした場合、その評価結果の信頼性と客観性、公平性を確保するため、第三者認証を行う鑑定サービス

であり、評価にあたって10パターンの運航モードを設定、船社の多様なニーズ、造船会社の新技術に対応できるよう詳細な実海域性能評価を行います。

なお、国際海事機関(IMO)においては、外航海運からの温室効果ガス対策として、新造船の燃費性能をインデックス化する「エネルギー効率設計指標ガイドライン」が策定され、より実海域性能の優れた船舶を調達しようとする動きが加速するものと思われます。

今後は、コンテナ船以外の船種へも順次対象を拡大していくため、引き続き各船種を対象に実船データの計測を行い、主要な船種に適用可能な実海域性能評価手法の確立に取り組んでいきます。

※「海の10モードプロジェクト」の詳細については海上技術安全研究所HPを、コンテナ船の環境性能鑑定サービスの詳細については日本海事協会HPをご覧ください。

海上技術安全研究所HP

http://www.nmri.go.jp/umi-10/index_j.html

日本海事協会HP

http://www.classnk.or.jp/hp/tech_info/tech_main_j.asp?techno=779

問い合わせ先：

国土交通省海事局総務課

技術企画官 吉元博文 (内線：44-404)

技術第二係 上田純平 (内線：44-456)

代表：03-5253-8111

直通：03-5253-8614

独立行政法人海上技術安全研究所

流体部門付 首席研究員 企画部研究連携統括副主幹

白井謙彰 (0422-41-3492)